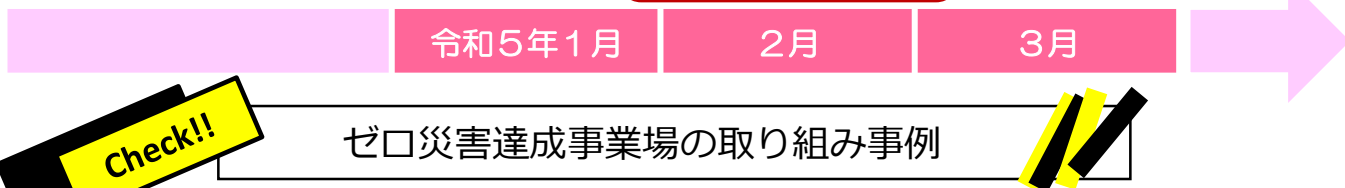


# 「建設業・ゼロ災運動 1月2月3月」

## 達成事業場の取組内容紹介

松阪労働基準監督署では、令和5年の始まりを無災害でスタートしていただくため、管内の建設業を中心に、令和5年1月～3月の3か月間、無災害に挑戦する事業場を募集したところ、**6事業場**が達成されました。ご協力ありがとうございました。

1/1 取組み期間 3/31



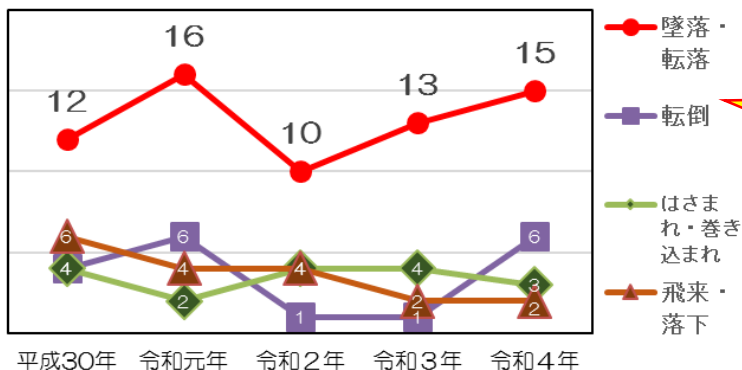
### ゼロ災害達成事業場の取組み事例

事業場名	安全衛生スローガン	取組み内容
株式会社北村組	意識が変われば現場が変わる！ 一人ひとりの安全意識 みんなの気づきでゼロ災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>足場組立前、解体前の周知会、鉄骨建て方前検討会に担当部長、統括、品質管理部長が参加し、一次下請けの代表、職長、二次、三次に施工体制がおよぶ場合には、その関係者の職長も同席させて周知を行い、現場一丸となって意識を高め、手順通り作業を進めるよう指導を行った。等々</li> </ul>
株式会社田村組	安全第一で 交通災害・重機災害・転落墜落 災害ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、全員参加による労働安全衛生に関する会議の開催</li> <li>毎月、複数人による各現場パトロールの実施</li> <li>透明ひさし、シールド付きの新しいヘルメットの導入</li> </ul>
有限会社大京建築	危険予知してゼロ災害 みんなで作ろう笑顔と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業前のKY活動の徹底や、作業場所の整理整頓を行った。</li> <li>作業中に危険な作業やいつもと違う作業を行う時には作業を止めて作業員全員で安全な作業手順の確認、考えられる災害等を話し合った。</li> </ul>
中井土木株式会社	安全で健康的な職場形成を促進 します	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月11日前後に社内安全パトロールを実施し、現場には評価した「社内安全パトロール実施表」で反省を求め、従業員には「社内安全パトロール総括表」をメール送信して、社として情報を共有した。等々</li> </ul>
丸亀産業株式会社	かくれた危険 みんなで摘み取り ゼロ災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生委員会、安全衛生協力会による安全パトロールの実施</li> <li>事業場における安全衛生教育の実施</li> <li>経営トップによる年度末現場点検の実施</li> <li>建災防の建設業年度末労働災害防止強調月間実施要領記載の全員が実施する事項のチェック、確認を実施</li> </ul>
株式会社百木組	全員で 声掛け、指差し ゼロ災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>声掛けを行うだけではなく、確実に応答を行い、相互に理解をした上で作業を行っていた。</li> </ul>

## 建設業における災害の動向


管内における建設業での労働災害は、「**墜落・転落**」災害がもっとも多く、毎年2番目に多い事故の型の2倍以上発生しています。令和4年の墜落場所は、「はしご等」が8件、「仮設物・建築物等」が3件、「トラック」及び「建設用機械」が2件となりました。「墜落・転落」災害の対策を中心に、安全衛生活動を推進してください。

図Ⅳ 建設業における主な事故型別




「**墜落・転落**」が  
最多!!

### 墜落・転落対策 チェックリスト

はしご	脚立
<input type="checkbox"/> はしごの上部・下部の固定状況を確認している	<input type="checkbox"/> 脚立は安定した場所に設置している
<input type="checkbox"/> (はしごをボルトで取付けている場合) ボルトが緩んだり腐食したりしていない	<input type="checkbox"/> 開き止めに確実にロックをかけた
<input type="checkbox"/> はしごの上端を、上端床から 60 cm以上突出している	<input type="checkbox"/> ねじ、ピンの緩み、脱落、踏みさんの明らかな傷みはない
<input type="checkbox"/> はしごの立て掛け角度は、75 度程度となっている	<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもをしめている
<input type="checkbox"/> はしごの踏みさんに、明らかな傷みはない	<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくいものを履いている
<input type="checkbox"/> はしごの足元に、滑り止め(転位防止措置)がある	<input type="checkbox"/> 身体を天板や踏みさんに当て、身体を安定させる
<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくい	<input type="checkbox"/> 天板上や天板をまたいで作業をしない
<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもを締めている	<input type="checkbox"/> 作業は2段目以下の踏みさんを使用する(3段目以下がよりよい)
リーフレット「はしごを使う前／脚立を使う前に」はこちら 	<input type="checkbox"/> 作業は頭の真上でしない
	<input type="checkbox"/> 荷物を持って昇降しない

★建設業の労働災害は、令和元年からの4年間の合計で、60代以上が最も多く、50代と合わせると、**全体の半数**を占めています。また、20代以下では、**全体の約2割**を占めています(右図)。

高齢労働者に対しては、加齢に伴う身体・精神機能の低下を踏まえた対策を実施していくこと、若年労働者に対しては、職務経験3年未満の未熟練労働者が多いことから、災害防止の基本を身に着けさせるため、安全衛生教育の徹底をはじめとした対策が重要です。

パンフレット「～働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場づくりを進めましょう～」はこちら 

建設業災害年齢別内訳(令和元年～4年)

